

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【平成27年10月】

■調査概要（データ対象期間：平成27年10月1日～10月31日）

- 調査期間：平成27年10月29日～11月24日
- 調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査
- 回収状況：建設業25企業、製造業20企業、卸売業15企業、小売業33企業
飲食業14企業、サービス46企業（運輸、不動産仲介業を含む）
<合計153企業>
- 調査項目：10月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価
状況向こう3ヶ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI (Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DIはマイナス幅が拡大・水準DIはマイナス幅が縮小

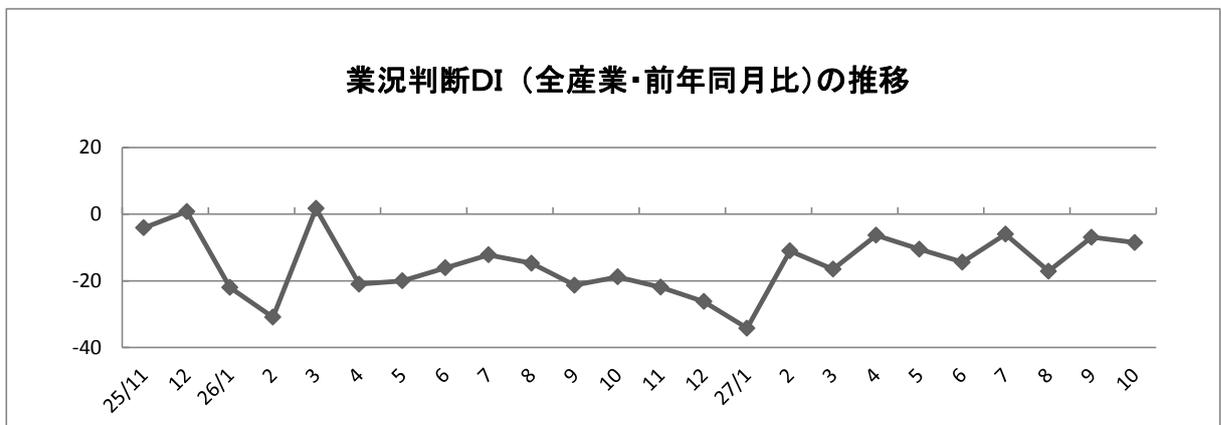
1. 業況判断

- 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲6.9）よりマイナス幅が1.6ポイント拡大し、▲8.5となった。業種別では、飲食業はプラス幅が拡大し、サービス業はマイナスからプラスに転じた。製造業はプラスからマイナスに転じ、卸売業、小売業、建設業はマイナス幅が縮小した。
- 全産業合計の水準DIは、前月（▲17.0）よりマイナス幅が2.6ポイント縮小し、▲14.4となった。業種別では、卸売業はプラスから0となり、製造業は0からマイナスとなった。建設業、小売業、飲食業、サービス業はマイナス幅が縮小した。

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	14.4 (16.4)	62.7 (60.3)	22.9 (23.3)	▲ 8.5 (▲ 6.9) ↘	14.4 (12.6)	56.8 (57.8)	28.8 (29.6)	▲ 14.4 (▲ 17.0) ↗
建設業	4.0 (4.2)	76.0 (66.6)	20.0 (29.2)	▲ 16.0 (▲ 25.0) ↗	8.0 (12.5)	64.0 (54.2)	28.0 (33.3)	▲ 20.0 (▲ 20.8) ↗
製造業	10.0 (37.5)	55.0 (41.7)	35.0 (20.8)	▲ 25.0 (16.7) ↘	10.0 (25.0)	55.0 (50.0)	35.0 (25.0)	▲ 25.0 (0.0) ↘
卸売業	20.0 (17.6)	53.3 (53.0)	26.7 (29.4)	▲ 6.7 (▲ 11.8) ↗	20.0 (17.6)	60.0 (76.5)	20.0 (5.9)	0.0 (11.7) ↘
小売業	12.1 (9.1)	60.6 (60.6)	27.3 (30.3)	▲ 15.2 (▲ 21.2) ↗	9.1 (6.1)	54.5 (51.5)	36.4 (42.4)	▲ 27.3 (▲ 36.3) ↗
飲食業	28.6 (23.5)	50.0 (58.9)	21.4 (17.6)	▲ 7.2 (5.9) ↗	14.3 (5.9)	57.1 (64.7)	28.6 (29.4)	▲ 14.3 (▲ 23.5) ↗
サービス業	17.4 (13.6)	67.4 (70.5)	15.2 (15.9)	▲ 2.2 (▲ 2.3) ↗	21.7 (11.4)	54.4 (59.1)	23.9 (29.5)	▲ 2.2 (▲ 18.1) ↗

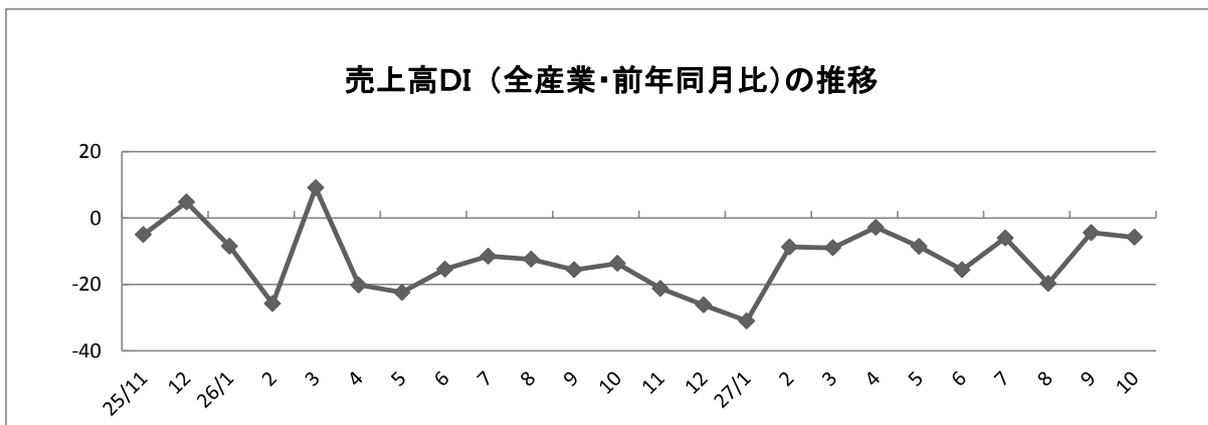
()内は前月データ

- ※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
- 「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



2. 売上高DI（前年同月比）

○全産業合計の売上高DIは、前月（▲4.4）よりマイナス幅が1.4ポイント拡大し、▲5.8となった。業種別に見ると、サービス業はプラス幅が拡大し、飲食業は0からプラスになった。卸売業、製造業はプラスからマイナスに転じた。建設業はマイナス幅が縮小し、小売業はマイナス幅が拡大した。

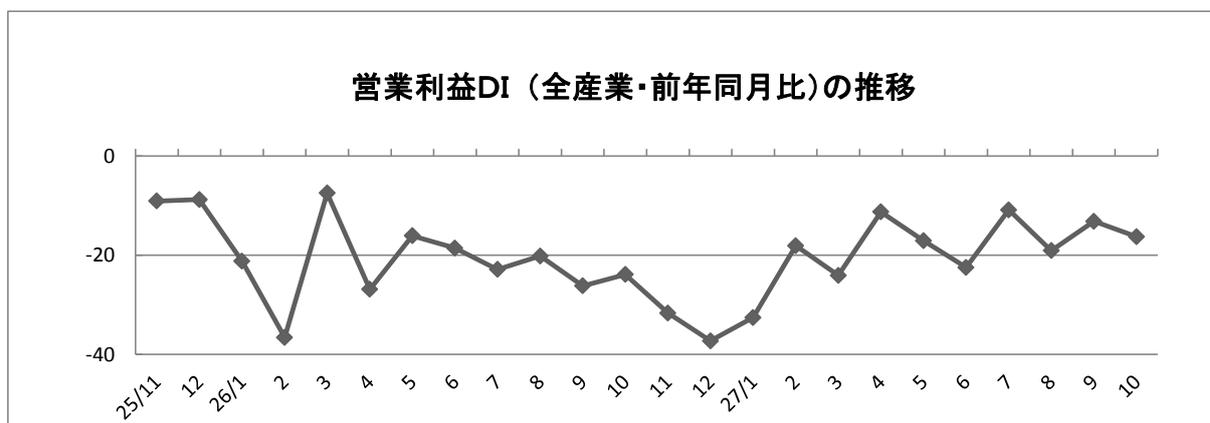


【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	26年10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全 体	▲ 13.7	▲ 21.2	▲ 26.2	▲ 31.0	▲ 8.7	▲ 9.0	▲ 2.8	▲ 8.6	▲ 15.6	▲ 6.0	▲ 19.7	▲ 4.4	▲ 5.8
建 設 業	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 17.7	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 6.2	▲ 15.0	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 30.4	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 4.0
製 造 業	▲ 23.5	▲ 33.3	▲ 19.1	▲ 30.0	▲ 13.0	▲ 25.0	5.0	0.0	▲ 13.7	15.0	0.0	8.3	▲ 40.0
卸 売 業	▲ 12.5	▲ 43.8	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 6.3	▲ 26.7	0.0	▲ 25.0	▲ 18.8	▲ 11.7	▲ 11.8	5.9	▲ 6.6
小 売 業	▲ 27.0	▲ 29.2	▲ 50.0	▲ 48.3	▲ 11.5	▲ 16.6	▲ 21.2	▲ 20.0	▲ 27.0	▲ 18.0	▲ 25.0	▲ 15.1	▲ 18.1
飲 食 業	▲ 20.0	▲ 30.0	0.0	▲ 22.2	27.3	8.3	▲ 8.4	6.7	▲ 7.1	▲ 12.5	▲ 11.1	0.0	7.2
サービス業	3.1	▲ 5.0	▲ 24.3	▲ 19.5	▲ 5.7	5.0	14.7	0.0	▲ 10.6	10.0	▲ 20.4	2.2	13.1

3. 営業利益DI（前年同月比）

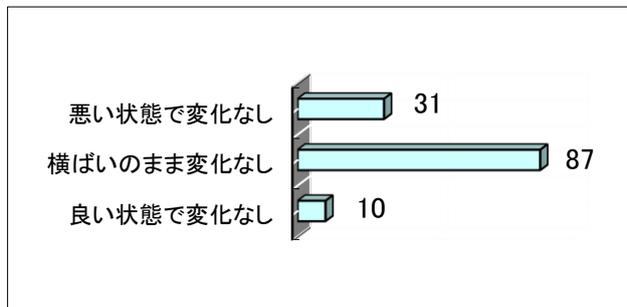
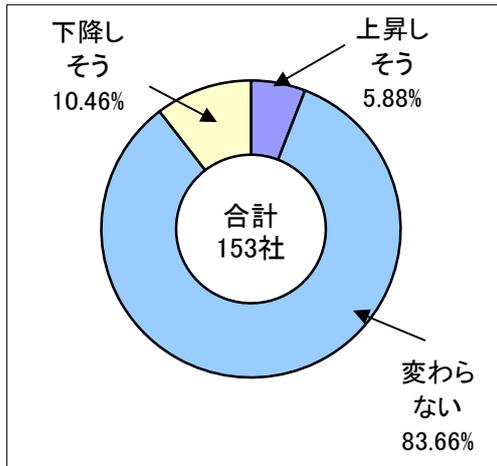
○全産業合計の営業利益DIは、前月（▲13.2）よりマイナス幅が3.1ポイント拡大し、▲16.3となった。業種別に見ると、サービス業はマイナスからプラスに転じ、飲食業はマイナスから0となった。卸売業はプラスから0になり、製造業は0からマイナスとなった。建設業、小売業はマイナス幅が拡大した。



【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	26年10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
全 体	▲ 23.9	▲ 31.7	▲ 37.3	▲ 32.6	▲ 18.1	▲ 24.1	▲ 11.3	▲ 17.1	▲ 22.5	▲ 10.9	▲ 19.1	▲ 13.2	▲ 16.3
建 設 業	▲ 33.3	▲ 13.4	▲ 35.3	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 32.0	▲ 33.3	▲ 39.2	▲ 32.0	▲ 33.3	▲ 36.0
製 造 業	▲ 23.5	▲ 50.0	▲ 28.6	▲ 35.0	▲ 26.1	▲ 45.0	▲ 10.0	▲ 30.4	▲ 31.9	15.0	▲ 17.4	0.0	▲ 30.0
卸 売 業	▲ 25.0	▲ 56.3	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 31.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 18.7	▲ 6.3	5.8	▲ 11.8	17.6	0.0
小 売 業	▲ 27.0	▲ 29.2	▲ 41.7	▲ 34.5	▲ 19.3	▲ 30.0	▲ 39.4	▲ 17.1	▲ 29.7	▲ 20.5	▲ 19.4	▲ 24.2	▲ 42.4
飲 食 業	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 36.4	▲ 33.3	27.3	0.0	▲ 16.7	▲ 6.7	▲ 7.1	▲ 31.2	▲ 11.1	▲ 11.8	0.0
サービス業	▲ 15.1	▲ 20.0	▲ 29.7	▲ 25.0	▲ 14.3	▲ 10.0	14.6	▲ 6.1	▲ 17.1	0.0	▲ 18.1	▲ 13.7	8.7

◇ 向こう3ヶ月の見通し ◇



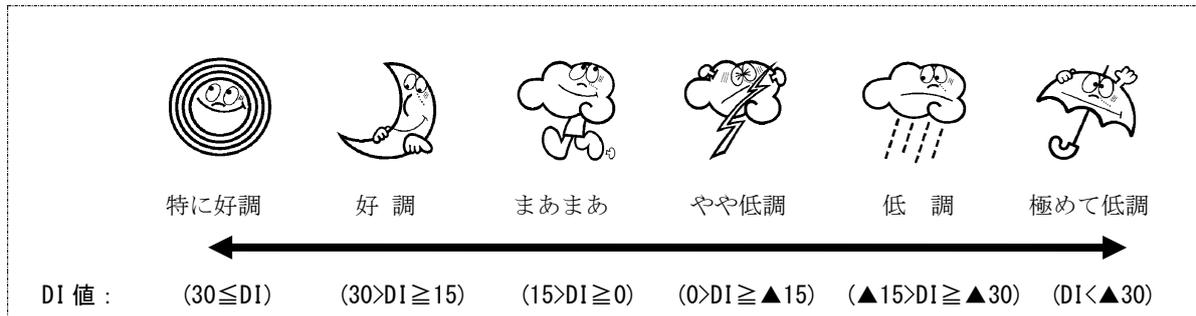
○平成27年11月～平成28年1月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ▲2.93ポイント減少し5.88%、「下降しそう」が2.28ポイント増加し10.46%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲8.0)、製造業(▲10.0)、卸売業(6.7)、小売業(▲15.2)、飲食業(0.0)、サービス業(2.2)であった。

➡「上昇しそう」では、「上半期の不振を挽回しなければならないため」(建設業)、「受注増のため」「新しい仕事があり少しずつ増加するため」(製造業)、「季節的要因」(卸売業)、「紅葉シーズン、忘年会等のため」「忘年会に期待大のため」(飲食業)、「テナント収入の増加のため」「年度末に向けて仕事が入ったため」「年末年始が一年で一番忙しいため」「企業の好業績が反映するため」「向う数ヶ月程度のプロジェクト稼働予定があるため」(サービス業)といった声が寄せられた。

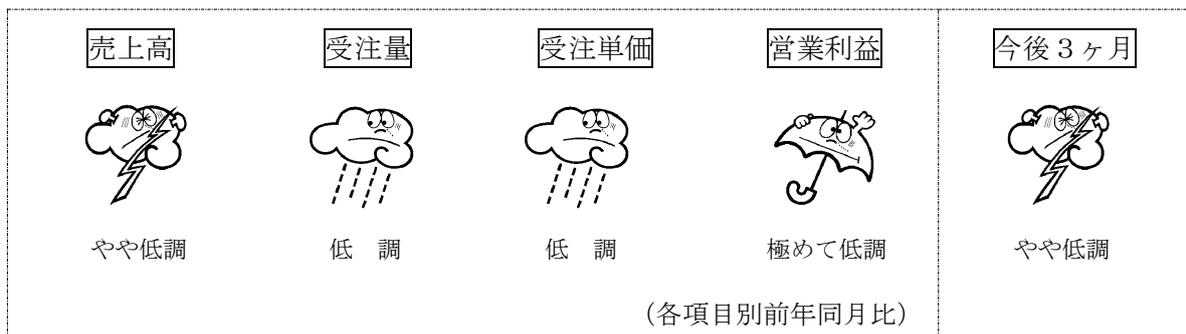
➡「下降しそう」では、「大型の受注案件が今月で終了するため」「受注がない」「補正予算が付かないと公共事業の発注がないため」(建設業)、「在庫調整の影響のため」「新規受注がないため」「見積で終わっているため」(製造業)、「個人消費の低迷から改善が見られないため」「年末年始休業で営業日減少のため」「消費者の買い控えが更に強まりそう」「来店客数の減少のため」(小売業)、「PM8:00 過ぎのお客様が減少のため」「例年同様」「活況となるような要素がみつからないため」(飲食業)、「12月以降冬の閉鎖期に入るため」「例年の動きによるため」「冬に向かうので利用者が減少するため」(サービス業)といった声が寄せられた。

業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	26年10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 13.4	▲ 6.7	▲ 17.7	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 6.2	▲ 15.0	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 30.4	▲ 40.0	▲ 25.0	▲ 4.0
受注量	▲ 33.4	▲ 13.3	▲ 47.0	▲ 43.8	▲ 31.2	▲ 18.8	▲ 15.0	▲ 12.0	▲ 20.8	▲ 34.8	▲ 36.0	▲ 54.2	▲ 16.0
受注単価	▲ 26.6	0.0	▲ 17.6	▲ 18.7	▲ 6.3	▲ 6.2	0.0	8.0	▲ 12.5	▲ 8.7	▲ 16.0	▲ 12.5	▲ 20.0
営業利益	▲ 33.3	▲ 13.4	▲ 35.3	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 20.0	▲ 32.0	▲ 33.3	▲ 39.2	▲ 32.0	▲ 33.3	▲ 36.0
見通し	▲ 6.6	0.0	▲ 5.9	▲ 6.3	6.2	6.3	▲ 5.0	4.0	▲ 8.3	8.7	0.0	▲ 12.5	▲ 8.0

<経営者の目・見方・e t c>

建築工事

・ようやく公共工事が出てきている。入札できるかは別であるが、多少の光が見えてきた様に感じる。

鉄工

・横浜のマンション工事や国内各所の橋梁工事等の建設物件について検査報告書の改ざんが表面化し、建設業に対する不信の世論が高まりつつある。当社が手掛けるような工事物件についても今後様々な影響が出ないか気になるところである。また、行き過ぎた労務単価の上昇や技能不足についても引き続き不安である。

・関東の仕事は今後10年間この状態が続くと予想している。地方の事業所も首都圏の仕事を手掛ける事になりそうだ。この状況は良いと思う。

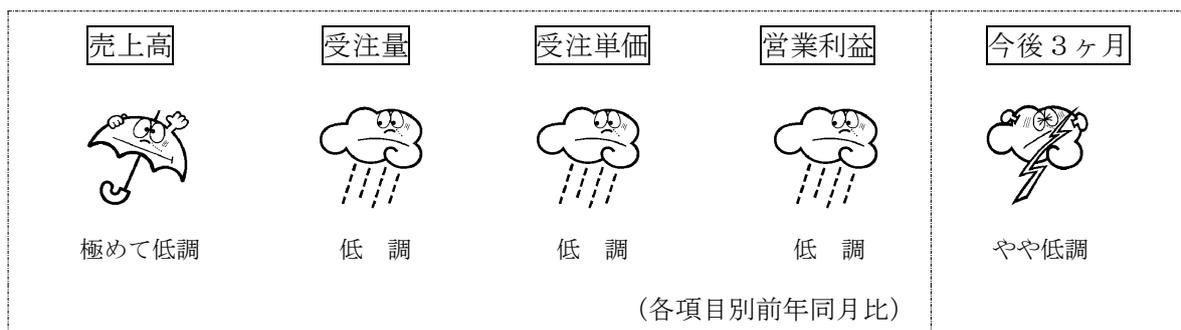
・地元の中小企業は先行き不透明である。

総合建設

・公共工事の発注が減少の中、全体的に工事の受注に会社間で偏りが見られる。

電気工事	・受注工事がない。また、予定もない。年末に向けてこの状態だと先が思いやられる。
土木工事	・消費税増税時の対応について今後考えていかなければいけないと思っている。
管工事	・全体の受注量は減となっているので、今後の見通しは悪い。建設業全体の施工水準が厳しくなってきているので利益が減少するのみである。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	26年10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 23.5	▲ 33.3	▲ 19.1	▲ 30.0	▲ 13.0	▲ 25.0	5.0	0.0	▲ 13.7	15.0	0.0	8.3	▲ 40.0
受注量	▲ 23.5	▲ 44.5	▲ 19.0	▲ 35.0	▲ 17.4	▲ 30.0	▲ 5.0	▲ 4.4	▲ 27.3	▲ 5.0	▲ 17.4	4.2	▲ 30.0
受注単価	▲ 23.5	▲ 22.2	▲ 23.8	▲ 20.0	▲ 21.7	▲ 30.0	▲ 25.0	▲ 17.4	▲ 31.8	▲ 20.0	▲ 17.4	▲ 8.4	▲ 25.0
営業利益	▲ 23.5	▲ 50.0	▲ 28.6	▲ 35.0	▲ 26.1	▲ 45.0	▲ 10.0	▲ 30.4	▲ 31.9	15.0	▲ 17.4	0.0	▲ 30.0
見通し	▲ 11.7	0.0	0.0	▲ 5.0	▲ 4.4	▲ 20.0	5.0	8.7	0.0	▲ 5.0	▲ 17.4	▲ 4.2	▲ 10.0

<経営者の目・見方・etc>

菓子	・10月は注文状況が悪く、需要の低迷は続いている。卵の価格も最近2年間高止まりで収益を圧迫している。12月の最需要期にどの位上がるのか恐ろしい状況である。
食品・飲料	・TPP合意による農業への影響。
菓子	・原材料の値上げ案内が出てきた。鶏卵の単価が高値安定である。
金属塗装	・世界経済、特に中国の減速が気になり。それに伴う親企業の生産減が当社の受注減につながっている。
小型情報機器組立	・中国経済の状況による、受注量の増減が心配である。

3. 卸売業



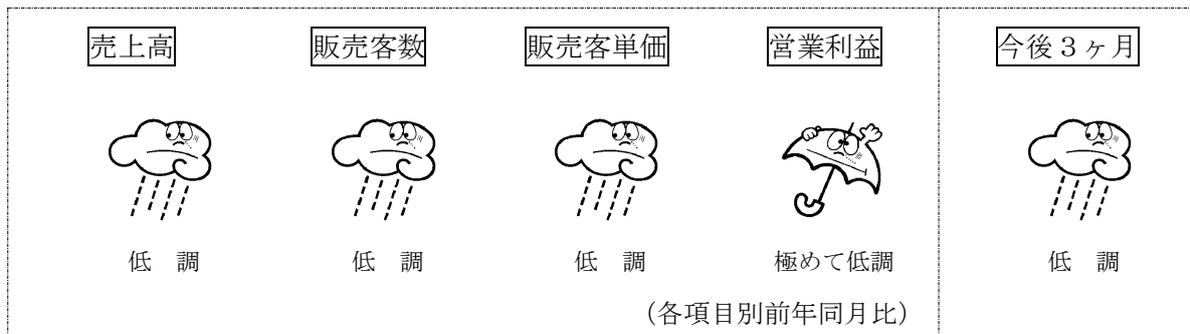
【項目別DIの推移】

	26年10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 12.5	▲ 43.8	▲ 31.3	▲ 25.0	▲ 6.3	▲ 26.7	0.0	▲ 25.0	▲ 18.8	▲ 11.7	▲ 11.8	5.9	▲ 6.6
販売客数	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 18.7	▲ 6.2	▲ 13.3	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 18.8	▲ 23.5	▲ 23.5	▲ 17.6	▲ 13.3
販売客単価	▲ 25.0	▲ 12.5	▲ 18.8	▲ 18.7	▲ 12.5	0.0	18.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲ 6.6
営業利益	▲ 25.0	▲ 56.3	▲ 62.5	▲ 37.5	▲ 31.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 18.7	▲ 6.3	5.8	▲ 11.8	17.6	0.0
見通し	0.0	▲ 6.3	▲ 12.5	0.0	0.0	▲ 20.0	6.3	0.0	▲ 6.3	0.0	11.8	5.9	6.7

<経営者の目・見方・e t c >

- | | |
|------|---|
| 青果 | ・10月は天候も良く、全般に入荷は順調だった。果物では、9月の降雨によって葡萄、梨の被害が見られた分減少となった。全体的には高値であった。 |
| 機械工具 | ・景気の下降を感じる。他社からの売込みが激しいため、益々利益が減少する。設備投資等の話が出ない。 |
| 土産品 | ・秋の紅葉シーズンは好天にも恵まれ客足も良かったが、売上の大きな上昇にはなっていない。松本地区は依然、回復していないと思う。年末が近づき厳しい状況が続く事は否めない。 |
| 包装資材 | ・消費者が消費に慎重になっている。 |
| 金属製品 | ・比較的大型物件としては、平成28年にかけて松本市内にショッピングモールの建設が計画されているが、材料等の具体的な進展はまだない。 |

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	26年10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 27.0	▲ 29.2	▲ 50.0	▲ 48.3	▲ 11.5	▲ 16.6	▲ 21.2	▲ 20.0	▲ 27.0	▲ 18.0	▲ 25.0	▲ 15.1	▲ 18.1
販売客数	▲ 42.4	▲ 25.0	▲ 37.5	▲ 41.4	▲ 30.8	▲ 40.0	▲ 12.1	▲ 5.7	▲ 24.3	▲ 10.3	▲ 30.6	▲ 27.2	▲ 18.2
販売客単価	▲ 11.5	▲ 20.8	▲ 20.8	▲ 31.1	3.8	▲ 13.3	▲ 6.0	▲ 2.9	▲ 16.2	▲ 12.8	▲ 22.2	▲ 12.1	▲ 27.2
営業利益	▲ 27.0	▲ 29.2	▲ 41.7	▲ 34.5	▲ 19.3	▲ 30.0	▲ 39.4	▲ 17.1	▲ 29.7	▲ 20.5	▲ 19.4	▲ 24.2	▲ 42.4
見通し	▲ 7.7	0.0	▲ 8.3	6.9	3.9	6.7	6.1	2.9	2.7	▲ 7.7	2.7	0.0	▲ 15.2

<経営者の目・見方・e t c >

薬局

生鮮食品

印章

菓子

ショッピングセンター

パン

人形

ガラスサッシ

書籍・木のおもちゃ

観光物産

陶磁器

・10月はなかなか厳しい状況である。

・10月は毎週末イベントが開催され、人出があったようだが、車が渋滞し大変だった。しかし、郊外にある店の集客にはつながらず、他の郊外店も同様に静かであった。

・昔は三文判、今は100円均一の出来合印、要するに安価で粗末な印、ロボットによる大量生産の同形印が世の中にごまんとある。この様な印を実印、銀行印として受け付けている。これでは命も財産も守れない。

・5年振りにかなり忙しい1ヶ月だった。東京の印鑑業会の展示会では、土曜日よりも金曜日の来場者数が多かったそうだが、総来場者数は昨年より減ったとの事。土曜日は仕事をoffと決めているのか、それともお店が忙しくて土曜日に時間が取れないのか。疑問の残る結果である。

・欧米の観光客が多い。菓子業界の命である乳製品(特にバター)が品切れとなり高値のため、今後も明るい展望は無い。

・業界的には個人消費の低迷が続き、改善がみえにくい状況ではあるが、改装による新たな客層の拡大、また顧客サービスの充実による来店頻度UPにより底支えを図っている。

・取り巻く状況は変わらず厳しいが、コツコツと努力を積み重ねる事で、しっかり数字が取れた。改めて、独自の強みをアピールしていきたい。

・取引先の廃業が出て来ている。

・寒さ、防音、結露対策以外の住宅エコポイントが終了したため、セールスポイントが無くなった。今後の補助制度に期待したい。

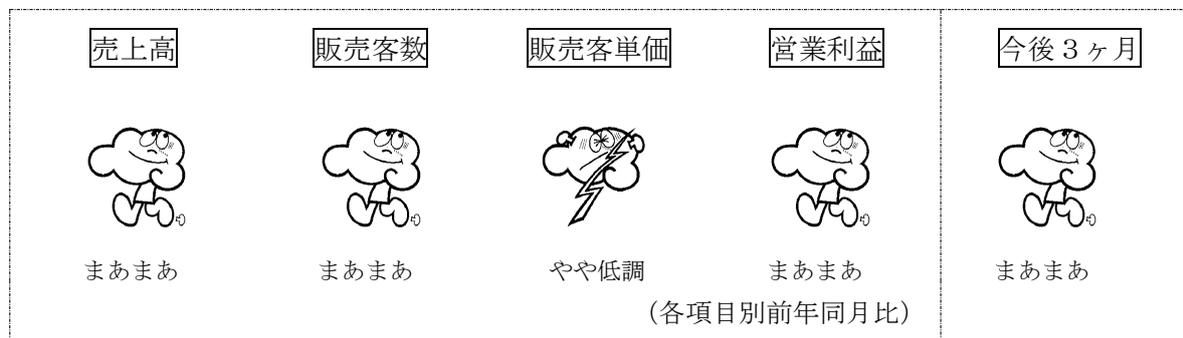
・商戦がなかなか盛り上がらない。クリスマスセールに向けてチラシを作成し、お客様にDMを送った。盛り上がり期待する。

・大手の間屋でも経営が苦しくなっているとの事。メーカーを含めて業界全体の再構築を考える時期がきている。地域の飲食店の売上が落ちているという話が多い。皆、工夫と努力を重ねているようだが、頑張るのみである。

・松茸の販売が多かったが、お客の減少、買い控えは続いている。

・天候の安定した穏やかな月だった。連休には例年通りの人出があった。松本山雅FCの勝ち点が思うように伸びなかったことを除けばまずまずであった。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	26年10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	▲ 20.0	▲ 30.0	0.0	▲ 22.2	27.3	8.3	▲ 8.4	6.7	▲ 7.1	▲ 12.5	▲ 11.1	0.0	7.2
販売客数	▲ 20.0	▲ 30.0	0.0	▲ 11.1	36.4	8.3	0.0	6.7	▲ 7.1	▲ 6.2	0.0	0.0	0.0
販売客単価	▲ 30.0	▲ 50.0	▲ 18.2	▲ 11.1	▲ 9.1	▲ 8.4	▲ 16.7	▲ 13.3	▲ 21.4	▲ 25.0	▲ 22.2	▲ 5.9	▲ 7.1
営業利益	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 36.4	▲ 33.3	27.3	0.0	▲ 16.7	▲ 6.7	▲ 7.1	▲ 31.2	▲ 11.1	▲ 11.8	0.0
見通し	▲ 40.0	▲ 30.0	▲ 27.3	0.0	36.4	16.7	16.7	▲ 6.6	14.3	12.5	▲ 22.2	5.9	0.0

<経営者の目・見方・etc>

寿司

- ・9月の下旬から10月にかけて松茸が豊富に出回ったため、約三週間の間、消費者にとっては久々の松茸の香りと味を楽しむ事が出来た。野山の食材も川、海の食材も天候によって相場が変わってしまうので予測が難しい。
- ・そば祭りなどのイベントもあり観光地周辺を中心に賑わいを感じたが、地元のお客様の動向はあまり良くないと感じる昨今である。今後もインバウンドなど含め、単に売上、客数などの計数で判断するのではなく、その内容を掘り下げて分析し、先を見据えて政策的に行動することが重要である。
- ・毎年の事だが10月は低調である。

レストラン

- ・マイナンバー制度が、パート、アルバイトの募集に悪影響となる可能性がある。零細企業のスタッフ募集が増々困難になる。

中華料理

- ・外国人のお客様が相変わらず多い。ただ、中国人のマナーの悪さ(声大きい、トイレの使用がきたない、テーブル下にゴミを捨てる、ゴミ箱に唾をはく、等)に本当に困っている。正直に言うとう断りたい程である。

料理

- ・何回もリピーターとして来客する観光客は、すべてをわかって飲食している。お客様方を今年豊作だった茸類でおもてなしが出来た月だった。

郷土料理

- ・観光客数が急増して良好な月となった(団体客も含む)。そば祭りも例年通り盛況であった。

そば

- ・夜の宴会が去年に比べ少なくなっているように思える分、昼間の集客が去年より大幅に増えた。また、そば祭りも賑わいがあった。

6. サービス業

売上高	販売客数	販売客単価	営業利益	今後3ヶ月
				
まあまあ	まあまあ	まあまあ	まあまあ	まあまあ

(各項目別前年同月比)

【項目別DIの推移】

	26年10月	11月	12月	27年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
売上高	3.1	▲5.0	▲24.3	▲19.5	▲5.7	5.0	14.7	0.0	▲10.6	10.0	▲20.4	2.2	13.1
販売客数	▲21.2	▲15.0	▲21.6	▲25.0	▲11.4	▲2.5	12.2	2.1	▲14.9	4.0	▲25.0	0.0	8.7
販売客単価	▲6.1	▲10.0	▲5.4	▲11.1	▲11.4	▲2.5	4.9	0.0	▲4.2	▲2.0	▲18.2	6.8	8.7
営業利益	▲15.1	▲20.0	▲29.7	▲25.0	▲14.3	▲10.0	14.6	▲6.1	▲17.1	0.0	▲18.1	▲13.7	8.7
見通し	▲6.1	▲2.5	0.0	2.7	14.2	0.0	2.5	▲2.0	0.0	10.0	9.1	6.9	2.2

<経営者の目・見方・e t c >

宿泊

- ・インバウンド(外国人旅行者)の増加が著しかった。

温泉旅館

- ・行楽シーズンと「そば祭り」が大好評であった。特にそば祭り出展者は来年度も期待「大」である。夏、秋と宿泊増加で冬期間の「ギャップ」が心配である。冬場対策の「知恵」を出さないといけない。

- ・昨年と比べて、お天気には恵まれたのは幸いだったが、その割に売上は伸び悩んだ。紅葉がかなり早く進み、お客さんの当てが外れたこともあるが、観光バスの入り込みが減ったことも原因と思われる。しかし、外国人客は増え続け、30%以上の割合となった。

ホテル

- ・週末の天候に恵まれたこともあり、観光の動きが良好であった。反面、宴会については例年「恒例宴席」が少ない月ではあるが、今年は動きが鈍い月となった。

- ・宿泊については昨年同様好調である。宴会、会議も消費税増税後の影響をようやく脱却した感じがする。

- ・宿泊売上は良好である。宴会、レストランの売上もまずまずである。

旅館

- ・天気も良く、紅葉も比較的きれいで長持ちした。

美容・理容

- ・ハロウィンによる経済効果が1,100億円という事なので、来年はそこに何らかの取り組みをしたい。

- ・まだまだ景気の上向きは感じられない。

マッサージ

- ・求職者が増えてきた。

警備保障

- ・業界最大手会社が、流通大手会社を子会社化した事による今後の動向が気になる。

保険

- ・業界的には国内首位生命が合併等をすすめて、ますます強まる競合に備えてい

る。地域としては業種を問わず全体的には好況であり、それが売上にも反映してきている。

- | | |
|------------------------|--|
| 介護サービス | ・個人消費が上向かない事。国民所得も減少気味のなか先行き不安が一段と強まっている。「新三本の矢」の1本は介護離職を0にするとしたが、できないだろうとの声は業界中に多い。介護保険料と利用料の低減が必要となる。 |
| タクシー | ・紅葉シーズンの上高地方面で、昨年より営業車両台数と客数が多かったので売上は増加した。 |
| 機械設計 | ・仕様が決まらず延びたため、売上の少ない月になった。 |
| ソフトウェア | ・成長過程にある顧客企業のシステムサポートを行うのは、やりがいもあり若手の経験にもなる。システム改編の動きは一時期よりはあるが、多重請負など日本式の構造的な問題もあり、地方のSEが育ちにくいのが現状である。 |
| 自動車整備・板金塗装 | ・10月に年に一度の感謝祭を行い、今年は総勢500名ほど来店して頂いたが、いつもの年に比べ出足が悪い気がした。他社でのイベントでも人出が悪く淋しい限りであると、業者の方が言っていたのが気にかかる。 |
| 獣医 | ・動物の健康を維持するペットフードが種々販売されている。特に動物病院で取り扱っている療法食(病気にあった食事)やその他一般食でも各社様々である。病院では獣医師はもちろんの事、動物看護師もペット栄養学会等の認定資格を取得し食事内容、カロリー計算などの栄養管理やメタボリック対応などを行っている。 |
| ペットサービス | ・来客数、売上共に前年並みだった。プレミアムフードの購入が増えてきた。商品、施術共にクオリティーを上げていきたい。 |
| ホームクリーニング・
リネンサプライ業 | ・9月に引き続き、観光客増により売り上げが伸びた。 |

